平成24年度第3回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成24年度第3回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成24年11月20日（火）午後3時30分～
- (3) 開催場所：北杜市高根町農村環境改善センター 会議室
- (4) 出席者：協議委員 櫻井八州彦／下條 順子／田中 壽弘／藤森 勇夫／平出 香織
島口礼子／齋木久壽／坂本美里
事務局 教育次長・小林 弘（図書館長） 篠原 美恵・長谷川誠
小野 まどか（総務担当）／浅川 さつき（明野図書館）
鈴木 真由美（すたま森の図書館）／長屋 恵（たかね図書館）
細田 恵子（ながさか図書館）／高野 裕子（金田一春彦記念
図書館）／進藤 由美子（小淵沢図書館）／斉木 紀恵子（ラ
イブラリーはくしゅう）／小池 法子（むかわ図書館）
- (5) 議題：
 - (1) 平成24年度北杜市図書館利用者懇談会について
 - (2) 北杜市図書館システムについて
 - (3) 各図書館からの近況報告について
 - (4) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：1人
- (9) 審議内容
 - 1) 平成24年度北杜市図書館利用者懇談会について
 - *事務局より、利用者懇談会の内容について概略を説明
 - <利用者懇談会での要望等について>
 - (要望) 資料への力を注いでほしい。行政資料（議会議事録・パブリックコメン
ト等）の図書館内で閲覧ができればよい。
 - (回答) どこまで図書館で公開できるか確認して対応する。議会のDVDは所蔵
しており、貸出可能。

 - (要望) 隣接県の新聞を置いてほしい。
 - (回答) 予算や各館の利用状況を確認しながら検討していく。

(意見) 学習スペース、飲食スペースがほしいという意見が多かったが、施設によって設備が異なるので、その施設の利用者が利用しやすいように使えば良い。利用者側も工夫して利用することが大切。

(要望) 図書館をもっと積極的にPRして、図書館の敷居を低くし、利用しやすいようにしてほしい。図書館をもっと外に向けて発信していくことが必要。

(意見) 読み聞かせの場所について、別室で行っている図書館もあるが、おはなしコーナーで実施した方が良い。ただ、うるさい等の苦情もあると思うので、試験的におはなしコーナーで実施してみたらどうか。

(意見) 学校図書館で図書館の情報を発信してくれることで、図書館利用が増える。図書館職員同士が連絡を取り合って情報を発信していくことが大切。

2) 北杜市図書館システムについて

*事務局より資料についての説明

- ・9月補正で、図書館システムの入替えを行う。(H25.6.1稼動)
- ・新図書館システム事業者については、プロポーザル方式にて、操作性・価格等を厳正に審査した結果、システムインナカゴミが優先交渉権を取得。現在、システムインナカゴミと仮契約に向けて打ち合わせ中。12月議会議決後に本契約となる。
- ・市内学校図書館システムをオプションで提案してもらっており、平成25年度で全て整備していく。資料の一元化を図ることで、資料の貸出、検索が楽になる。

3) 各図書館からの近況報告について

*各図書館の事業報告、事業内容については、別紙のとおり

すたま：ボランティア団体 すたまおはなしの会アリスが、第45回全国優良読書グループに選ばれた。

学校図書館との連携会議にて、公共図書館と学校図書館とがネットワーク化された時の物流方法等を決めていく必要があるとの意見が出された。

たかね：浅川巧が映画化されたことで、資料館に来館された方が図書館を利用してくれた。

金田一：中学生への図書館利用を促進していきたい。

むかわ：「図書館・児童館・ワクワク合同 こどもまつり INむかわ」が、子育て支援課のイベントと重なってしまった。

イベントは重ならないように調整していく。

委員：むかわ図書館のオープンに向けて予算付けはあるのか。

事務局：支障のないように予算を確保している。引越し等は職員が協力して行う。

委員：教育センターとの共催イベントがあるが、行政間の連携は取れているのか。

次長：図書館－学校、図書館－教育センター、図書館－生涯学習課で連携を取っている。

子育て支援課とは、今後連携を取っていく予定。

「地域コミュニティの場としての図書館」等、8図書館が存続するためには、各図書館の特徴づけが大切。

委員：図書館ボランティア事業において、女性が多く男性が少ない気がするが、男性が加入しているボランティアはあるのか。

図書館：金田一、むかわ、明野、ながさかで、数名の男性ボランティアがいる。

事務局：協同開催をすることで、刺激になる。

委員：ライブラリーはくしゅうとむかわ図書館で連携があったのでは。

図書館：学校図書館連絡会を、白州と武川とで合同で開催した。

委員：すたま森の図書館の読書感想文応援塾は、学校では指導できないので良い企画。大人数が参加できるようになると良い。

すたま：読書感想文応援塾の指導は、マンツーマンになっているため、少人数の参加となってしまう（他市では、授業形式で実施している図書館もある）。今の形式だと講師を増やさなければならず、報償費もかかる。企画内容を考えていく必要がある。講師ではなく、ボランティアとしての参加があっても良い。

次長：ボランティアは、北杜市図書館として考えていかなければならない。

委員：図書館だけでなく、学校の応援があってもいいのではないかと。

宿題を出すからには、責任を持っていくべき。

夏休み前にこのような事業を実施すると、学校としても公共図書館としても、両方で取り組めるので良い。授業の中で指導していくのも一案。

委員：読解力等は学校でも充実させているはず。はくしゅう・むかわの連絡会議

- において、もっと図書館を活用しようという話はなかったのか。
- むかわ：まだ1回目の会議だったので、そこまでの話はできなかった。
今後、情報交換をしていこうという話になっている。
- 委員：学校図書館では、読書感想文まで指導していない。書くために読むとなると、読書嫌いになってしまうのではないか。
書かせることまで図書館が担うことはないのではないか。手伝いという程度ならボランティアが手伝ってもいいのではないか。
- 委員：図書館は相談程度の支援で良いのではないか。今後の課題。
- 委員：市民全体を考えると、利用率は低い。
団体の利用カードを作成し、12月に移動図書館を実施予定。男性も関心を持ってきている。
読書感想文を発表してもらったり、公民館でイベントを実施している。
- 委員：北杜市は豊かな自然が多い。この豊かな自然をどう伝えていくかを考えている。図書館として、自然を伝えていくイベントを考えてほしい。
- 次長：図書館として本を紹介する等、情報提供をしていくことも必要。そういった選書をしていく。
- 委員：民俗講座も、講義できる講師がずっと存在するわけではないので、そういう面も考えていってほしい。
- 次長：図書館と学術課のイベントがかぶることがあるので、調整していく。
- 委員：講座等を開催した際に、資料等を残しておいてほしい。
- 次長：学術課で検討中。
- 委員：一個人の意見を資料として残していくことは難しい。多方面の意見が必要。
- 明野：郷土資料館の資料がデータとして残っていない。埋蔵文化センターの資料も、昨年度から見ることが出来ない。
教育委員会として資料の保存を考えてほしい。
- 次長：今まで各資料館にあった資料は、北杜市郷土資料館が集中管理している。
現在、組織を作ってデータを整理中。
四季派書庫にある資料は、新図書館システムの導入時に図書館の資料として閲覧できるようにしていく。

(10) 前号に定めるもののほか、審議会等が必要と認める事項：特になし